

# OUR MUSIC

わたくしたちの音楽



ヨゼフ・ハーラー氏 海外音大教授によるピアノ演奏法研究第4回 11月21日〈東音〉サロンにおいて

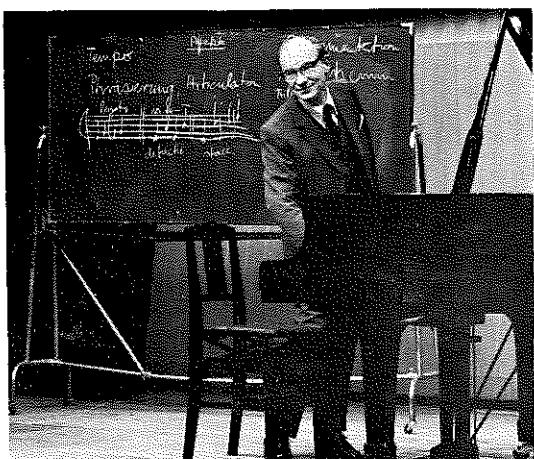
## もくじ

●ベラ・シキ教授来日関係記事	2
○ベラ・シキ教授略歴	2
○目で追う日本でのベラ・シキ教授	3
○レッスンを受けて（感想文）	4
○「ショパン・エチュード」公開講座より	6
●〈東音〉ピアノ教室 No. 61	8
●「ドメニコ・スカルラッティ」橋本英二公開講座より	10
●ピティナ往来	13
●PTNA おしゃべりサロン	14
●第2検回定合格者名、第3回検定要項	とじ込み頁
●PTNA 催し物御案内	とじ込み頁

〈ハンガリーが生んだ世界的ピアニスト〉

# ベラ・シキ 教授来日！

— 各地でプライベートレッスン —



公開講座「バッハ・クラヴィア曲研究」より

## 〈ベラ・シキ教授プロフィール〉

ベラ・シキ教授は、ブダペスト国立音大、ジュネーブ国立音大、ワシントン大学等で教鞭を取り、その教え子達には、宮沢明子、松崎伶子などの著名なピアニストが多い。国際コンクール出場者の中には、先生のレッスンを受けるために、わざわざ飛行機で先生のもとを訪れる人もいるほど、その指導力は高く評価されている。

又ピアニストとしては、"国際コンクール荒し"と言われるほどに、ヨーロッパの数々の国際コンクールに入賞し、コンクール審査員としても、リーズ国際コンクールを始め、ヨーロッパ各地のコンクールで幅広く活躍されている。

## DR. BELA SIKI SCHEDULE IN JAPAN

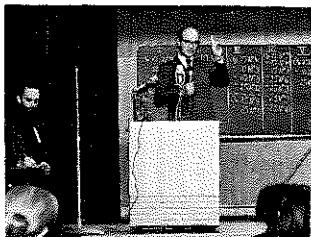
〈10月〉

17(火)	ベラ・シキ教授来日	18(水)	池袋豊島区民センターにおいて公開講座（海外音大教授によるピアノ演奏法研究第3回）	19(木)	四日市において、プライベートレッスン	20(金)	午前中 名古屋（広小路ヤマハホール）にて公開講座 午後 プライベートレッスン	21(土)	東京銀座 ヤマハゲストルームにおいて、プライベートレッスン	22(日)	東京成城 内野スタジオにおいて、プライベートレッスン	23(月)	東京巢鴨〈東音〉サロンにて、プライベートレッスン	24(火)	東京高田の馬場にて、プライベートレッスン	25(水)	池袋豊島区民センターにおいて公開講座（バッハ・クラヴィア曲研究 第3回）	27(金)	午前中 奈良観光 午後 プライベートレッスン	29(日)	松崎伶子先生宅においてプライベートレッスン	31(火)	東京巢鴨〈東音〉サロンにて、プライベートレッスン	11月	夜、松崎伶子先生宅において、お別れパーティ	1(水)	一の後帰国
-------	-----------	-------	--	-------	--------------------	-------	--	-------	-------------------------------	-------	----------------------------	-------	--------------------------	-------	----------------------	-------	--------------------------------------	-------	------------------------	-------	-----------------------	-------	--------------------------	-----	-----------------------	------	-------

# DR. BELA SIKI

## PHOTOGRAPH CORNER

### “目で追う、日本でのベラ・シキ教授”



10月18日（写真左）海外音大教授者によるピアノ演奏法研究（池袋豊島区民センター）通訳は、ラーリー・マックガレル先生（左端）  
10月19日（写真右）四日市、岩野めぐみさん宅で個人レッスン、通訳は、田端三恵子先生（左端）



10月20日（写真右）名古屋ヤマハでの公開講座 通訳は、前日に続き田端三恵子先生にお願いした。  
10月21日（写真左）銀座にて、ベラ・シキ教授を聴んでの夕食会、武田宏子先生、福田靖子先生の顔も見える。くつろいだ一時である。



10月25日（写真左）  
バッハ・クラヴィア  
曲研究（豊島区民セ  
ンター）気心の知れ  
た田端先生の通訳で  
参加者の理解もさら  
に深まり、有意義な  
講義がくり広げられ  
た。



10月23日（写真上）稟鶴〈東音〉  
サロンでの個人レッスン、レッスン生は田村明子さん。通訳をして下さったのはポール・シェパードさん。聴講生の小山直子さんの顔も見える。

10月27日（写真左）京都での個人  
レッスン。昨年度プレティナオ  
ーディションB級金賞受賞の田村  
明子さん宅で行なわれた、大勢の  
会員の先生方の顔が見える。

# ベラ・シキ教授の レッスンを受けて

〈感激の声あれこれ〉

## 密度の濃い 忘れ得ぬ1時間



岩永 晴子

(10月22日成城内野スタジオに於て)

私がベラ・シキ先生のレッスンを受けたのは、日曜日の夕方でした。その日は、朝から心が落ちつきませんでした。普段のレッスンでさえ、私は、緊張して思うように演奏できないことが随分あるのに、まして、外国人の先生のレッスンなど初めての経験でした。

レッスンはフランス語で行なわれました。まず、最初はペートーヴェンのソナタ。私は夢中になって弾きましたが、体も音も硬くなつて思う様に弾けず、悲しくて恥ずかしくてたまりませんでした。そして、ベラ・シキ先生が何とおっしゃるか、ピクピクしていました。しかし、先生は、はじめから順々に、懇切丁寧に教えてくださいました。先生は、しばしば、お手本を見せてくださいましたが、その手は大きくて、安定していて、その音は透き切っていました。同じピアノからこんな冴えた音が出るのだから素晴らしい。

ペートーヴェンの次は、ショパンのエチュードでした。ベラ・シキ先生は、ショパンのエチュードの権威と聞いていたので、これも緊張しました。でも、歌を忘れず思う存分弾こうと、自分に言い聞かせて弾きました。先生は、今度も、手首の使い方や角度まで、熱心に教えてくださいました。1度で直らないところは、何度も繰り返して。私は、フランス語はよくわかりませんが、先生の語調は、終始おだやかで紳士的で、私の緊張を和らげてくださいました。

私は、体が小さいこともあって、とかく、ピアノにしがみついて目先の音を追ってしまいます。しかし、今度のレッスンで、ピアノの音をもっと大事にし、生かすようにななければと痛感しました。全体的な曲想においても、個々の細かな部分でも、ちょっとした配慮やニュアンスの有無が、音楽の生死をも左右するように思います。

こうした適切なアドバイスを、ベラ・シキ先生のような立派な先生から頂けて、大変しあわせでした。短いレッスンではありましたが、密度の濃い、忘れ得ぬ1時間だったと思います。

だんだん

楽しくなってきて…

田村 明子



(10月23日〈東音〉サロンにて)

今度私は、初めて外国のえらい先生のレッスンを、受けることが出来ました。先生のお名前は、ベラ・シキ先生です。受ける前は、少し手のひらにあせが出て、ドキドキしましたが、レッスンになると、先生のご注意がやさしいお声なので、安心して、そのうちだんだん楽しくなってきました。あとでとっても楽しかったので、ピアノの練習が、もっと好きになったような感じがしています。はずかしかったのは、ふ読みのまちがいが、たくさんあったことです。これからは、こういうご注意で、時間をとらないようにしなければいけないと、思いました。

シャブリエのスタッカートの所は、手を平たくしてひくように言われ、そのとおりすると、とてもひきやすかったです。リズムのながさのことや、急がないでひくようにといふことも、わかるまで、何度も教えて下さいました。バッハの平きんりつの九番は、私には、少しむずかしすぎるとおっしゃいました。それで、お勉強する順番を、楽ふに印を付けて下さいました。ベラ・シキ先生は、ていねいに、そうっと書かれます。楽ふを、とても大事にしていらっしゃるんだなあ、と思いました。それから英語は、通やくの方がして下さったけれど、だいたい、手のしぐさや感じでわかるので、おもしろいなあ、と思いました。

今度の事をいつまでもわすれないで、これからも、いらっしゃうけん命お勉強していこうと思います。

自分の手が

まるで鳥の羽根のよう

西沢 綾

(10月23日〈東音〉サロンにて)



ベラ・シキ先生のレッスンを受けて1番強く感じたのは、これがヨーロッパの音楽なのかということでした。いろいろ、国によってちがう生活をしている中から作られた音楽も少しづつちがってくる様な気がしたのです。先生が弾かれるのを見たり聞いたりしていると、先生はとってもやわらかく、のびのある音で弾かれます。それが日本にはない様な気がしたのです。

それから、私が感じたことは、レッスンをしていると、自然にいつもはかくなっているうでや手首、かたなどがやわらかくなっているのです。ベートーヴェンの時などは、自分の手が、まるで鳥の羽根でけんばんの上をすうっとなでている様に感じました。あまりのことなく、びっくりしてしまった位です。

それに、先生が注意して下さる事が非常によくわかるのです。言葉はちょくせつ通じないので、どうしてこんなによくわかってしまうのかと、何だか魔法の様だと思いました。

あと細かい事をいえば、指使いの事や、アーティキュレーションのこと等、たくさんの事を教えて頂き、楽しいレッスンだったと思います。ベラ・シキ先生が、いつまでも私の先生であればいいなと思いました。

家へ帰ってきてから、先生に教えて頂いた事を1つ1つ思い出して、楽譜に書き込んでおきました。見て頂いたベートーヴェン、ショーベルト、ショパンを全部書いてから、何か所教えて頂いた所があるかと数えてみると、合計約40ヶ所もありました。これから、この40ヶ所を全部自分のものにしていきたいと思います。

### 暗譜ホヤホヤの曲を見てください

小菅 洋子

(10月23日〈東音〉サロンにて)



今回会報で、ベラ・シキ先生の公開及び個人レッスンのことを知り、初めて個人レッスンを受けさせていただくことが出来、有難うございました。

初めてお目にかかりましたが、大変親しみやすい、落ち着いた、センスのよい紳士といった感じが、初対面の私にとりまして、どんなに心やすらいだことでしょう。「今日はガーシュインのラプソディーインブルーをお願いいたします。」といって、私は先生に本を渡し、ピアノに向って弾き始めたものの、何といっても暗譜ホヤホヤの曲なので、自然に激しくなる鼓動をおさえることが出来ない程でした。まずひと通り弾き終ると、楽譜を前に置いて下さり、1. 音と音色について、2. 拍子とリズムについて、3. ベダルについて、4. フレーズについて、それぞれ細かい注意があり、その個所にくると、先生が納得されるまで、何度も弾かせて下さいました。

この曲は、クラシックとジャズのハーフのような曲で、4拍子でありながら、ガーシュイン独特の強いアクセントのつけ方によって、非常に個性的なものとなり、よりラプソディーインブルーの特徴が出てくるのです。

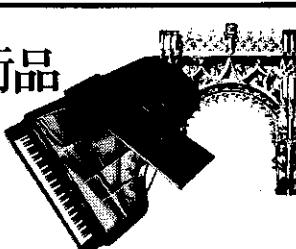
(楽譜例参照) 全部で9つの異なるアクセントの用い方があります。(ここでは全部の楽譜を紹介することが出来ない)

これまで、特にロマン派音楽を得意としていた私にとって、この様なリズミックな曲を、頭ではなく、身体全体で感じて演奏出来るようになるまでには、かなりの時間がかかりました。しかし、今日のこのレッスンを無駄にしないよう私は、帰ってすぐ忘れないうちに、練習に練習を重ね、そしてやっと11月9日テープに吹込み、これをある友人に送ることが出来たのです。

ベラ・シキ先生、本当に有難うございました。又ご紹介下さり、当日色々お世話下さいました福田先生に、心よりお礼申し上げます。

格調高い音の芸術品  
デアパソン

DIAPASON



浜松商事株式会社

本社 浜松市寺島町200番地 TEL 430

仙台営業所 ☎ 0222-23-3181

東京営業所 ☎ 03-379-1371

浜松営業所 ☎ 0534-54-2131

名古屋営業所 ☎ 052-962-2966

大阪営業所 ☎ 06-271-7846

福岡営業所 ☎ 092-531-4031

海外音大教授者によるピアノ演奏法研究③

# ショパン・エチュード

## op. 10 全12曲

## op. 25 全12曲

### の演奏法と指導法

ベラ・シキ教授

#### ▶はじめに

チャルニーや、クレメンティのエチュードを勉強する場合には、楽譜通りの順序で、勉強することができますが、残念ながら、ショパンの場合には、そのままでは、あまりいい入り方だとは思いません。

ですから、ショパンのエチュードを勉強する時に、順序というものは、最大の問題になります。私なりに考えました順序は下記の通りです。

I	II	III
op. 10—No. 9	op. 10—No. 3	op. 10—No. 4
op. 25—No. 2	op. 10—No. 6	op. 10—No. 5
op. 10—No. 12	op. 25—No. 7	op. 10—No. 8
op. 25—No. 1		op. 25—No. 12
op. 25—No. 3		op. 25—No. 4
		op. 25—No. 5
IV	V	
op. 10—No. 7	op. 10—No. 1	
op. 10—No. 10	op. 10—No. 2	
op. 10—No. 11	op. 25—No. 11	
op. 25—No. 6		
op. 25—No. 8		
op. 25—No. 9		
op. 25—No. 10		

次に、各々の練習曲についての注意事項を、述べたいと思います。

#### ▶〈I〉について

##### Op. 10—No. 9

ショパンの独特な手の形、鍵盤に対する手の位置を認めないと良く弾けないと思います。つまり、鍵盤に対する手、あるいは、手首の角度が必要となります。

##### Op. 25—No. 2

左手の場合、大きな隔たりがあり、それを弾くために

は、横に手首が動いていなくてはなりません。難しい点は、両手を合わせる時です。左手は大きな隔たりがあるので、正しく弾くために、多少ゆっくりしたくなる訳ですが、それに対し、右手は細かいメッセージを弾いていますから、合わせるのが難しくなります。しかし、あくまでも平等に弾かなければなりません。

##### Op. 10—No. 12

左手のための練習曲ですが、右手の難しさをともすると見逃しがちです。つまり、右手の正しいリズムを、軽視されることが多い点です。中間部の一番難しいところは、やはり、ショパンの手の位置—左手が角度を持った形になっていれば、弾きやすいと思います。

##### Op. 25—No. 1

大きなアルペジオがあり、左手は、時々大きな隔たりが入ってきて、ある音を省いてしまうこともあると思いますので、注意して下さい。

##### Op. 25—No. 3

暗譜が難しい点があると思います。つまり、鍵盤全体に渡って、鍵盤のレジスターを変えながら、弾いていますから、同じ位置、同じ音域で弾いている場合と違い、覚えにくいと思います。工夫としては、まずコードを勉強すれば、分かりやすくなると思います。

#### ▶〈II〉について

##### Op. 10—No. 3

ゆっくりとした歌う曲です。

##### Op. 10—No. 6

読譜が問題になりますので、そこを注意して下さい。

##### Op. 25—No. 7

左手に嵐のような音階の難しさがあります。他には、ルパートの問題があります。ルパートは、ショパンの曲を弾く時に、大変重要なことですが、その演奏者により、時々音楽というよりも、船に酔った時のように聞こえて、残念に思うことがあります。

極端な演奏を避けるために、ルパートは、ある小節から時間を借りたら、同じ小節に、それを返さなければならない、という考え方をしていれば、全体の時間の流れはくずれません。

#### ▶〈III〉について

IIIのところは、難しさの順序というよりも、難しさの種類になると思います。アーティキュレーションの問題が中心的な練習になります。指はハ長調の場合のように、鍵盤に平行でなければ、正しく弾けません。

##### Op. 10—No. 4

片方の音域が割合狭いために、上記のような技術が必要となります。

### Op. 10—No. 5

同じように、指の細かい運動神経が問題になります。  
次の2曲は特別な目的があります。

### Op. 25—No. 4

左手の和音や、隔たりを飛ぶという技術を、問題にします。注意する点は、左手の指使いは大変大切で、5番目の指を、なるべくバスの低い音だけに使うと、飛びやすくなります。つまり、上の和音には、5の指を使わないようにして下さい。同じようなことは、マズルカにも言えます。

### Op. 25—No. 5

ショパンの練習曲の中では、非常に珍しい点があります。それは、彼が好んだ、右手の開いた角度の、逆の角度が必要となります。

## ►<IV>について

IVでは、全部3度、6度、あるいはオクターブの問題になります。

### Op. 10—No. 7

ショパンとしては、珍しい手の角度や位置が出てきますが、その他に、一つお勧めしたい点は、左手の下の声部に注意しながら練習すると、弾きやすくなると思います。

### Op. 10—No. 10

2と5の指の隔たりが、問題になります。右手の場合単音、オクターブ、単音、オクターブのようなパターンになりますと、手首の横の動きをしがちですが、はっきりした指の動きで、弾いた方が効果的です。

### Op. 10—No. 11

大きな和音が問題です。手首の横の動きに注意します。

### Op. 25—No. 6

3度の練習ですが、ショパンの1つの発明としては、派生音階的3度を扱っている時に、隣りの指をどちらか片方、指使いに入れるということです。もう1つは、隣りが白鍵の場合に、親指ですべる技術もあります。又、黒鍵から、白鍵に行く時に、2の指ですべるという技術も勧めています。

### Op. 25—No. 8

6度の問題ですが、出来ると思われる生徒に、練習させた方が意味があると思います。

### Op. 25—No. 9

生徒に与える場合、やはり時期的に早すぎないことと、右手の3つずつのスラーに気をつけて下さい。

### Op. 25—No. 10

ショパン独特のオクターブの問題です。つまり鍵盤に対する角度は、5だけでなく4の指を強くします。オク

ターブの中に、もう1つの音があり、その音がずっと保たれて、4と5の指を使いながら、オクターブだけ動かすメッセージもあらわれます。

## ►<V>について

Vには、一番難しい曲がそろっています。

### Op. 25—No. 11

音楽的にも、技術的にも、大変難しい曲です。ショパンのエチュードの中で、ユニークなものです。右手の難しさに加え、左手の難しさにも、注意を向けてほしいと思います。

### Op. 10—No. 2

チェンバロの指使いが表われています。つまり4の指で、5の指をわたる問題です。同じ右手に派生音階と、その伴奏が一緒になっています。多くの場合、右手の和音の下2つの音を、手首又は、手、腕で伴奏的に弾きがちですが、手をあまり動かさずに、メロディーの、細かい動きに注意しながら弾きます。

派生音階は、上がる方は、良くできる人が多いのですが、下がる方は下手なようです。その理由は、指が平たくなるためです。

### Op. 10—No. 1

この曲は、手の大きさよりも、親指の使い方が、問題になる場合が多いと思います。親指を弾いた後、次の親指の音に、早目にもっていかないからです。2、3、4の指は平たくならず、丸くし、指先で弾いた方がいいと思います。

アルペジオのところは、ショパンの示した、1 2 3 5又は、1 2 4 5のような指使いが出てきますが、場合によっては、1 2 3、2 3 1という使いの方の方が、いい場合もあります。

## ►おわりに

大変大まかに、ショパンのエチュードについて、弾き方、指の使い方、手の形、鍵盤に対する腕の角度等について、お話ししました。弾き方というよりも、一番中心的なことは、技術的な問題だと思います。1つ1つの練習曲の音楽的な内容について、お話しましたが、練習曲を考える時に、本質は技術の問題ではなくて、芸術的な、あるいは音楽的なものだと考えていただきたいと思います。

(誌面の都合上、講座内容全てを掲載することができませんでした。)

お　い　の　り

曲 ジェームス・バスティン

Moderately, but with spirit

上の曲は、黒人のお祈りを思いながら弾きましょう。 大変やさしい曲ですが、タイに気をつけましょう。  
左手で、四分の四拍子のリズムを、きざむような気持で弾くと、リズムの乱れがないと思います。  
ペダルの練習、初見の練習にもなる曲です。

アメリカに行って日本の音楽教育を  
広い視野から見直してみませんか!!

## ブリガムヤング国際コンクール及び ピアノフェスティバルアメリカツアー

— ピティナ ヤングピアニストコンクール提携 —

訪問都市 サンフランシスコ、ソルトレイク、ブリガム、ラスベガス、グランドキャニオン、サンディエゴ、  
デズニーランド、ロサンゼルス

各国からの審査員に、日本からは「雪の降る町を」等の作曲家でピアニストの中田喜直先生が、出席されます。

日本代表出演者として、昨年ピティナヤングピアニストコンペティション

金賞受賞者 E級 若林 順君が、出演します。他に、

友情出演者 植田尚子さん(52年度E級金賞) 西沢 紗さん(53年度C級金賞)

堀 節子さん(53年度C級銀賞)

期間 54年6月21日(木)～7月6日(金) 16日間

旅行日程

6月21日(木) 東京→サンフランシスコ サンフランシスコ市内見学

6月22日(金) ソルトレイクへ 大自然観光

6月23日(土)～6月30日(土) ブリガムヤングピアノフェスティバル 及び パックアウター国際コンクール参加

7月1日(日) ラスベガス→グランドキャニオン見学

7月2日(月)～7月3日(火) サンディエゴ 世界一のシーワールドなど市内見学、バスティンスクールの子供たちと交換演奏会 など

7月4日(水) デズニーランド遊歩

7月5日(木)～7月6日(金) ロサンゼルス→東京

参加費用 ¥ 388,000 会員価額 ¥ 380,000 ペア(2人申し込み) 1人 ¥ 370,000

30人以下の場合は価額が変更になります。

お申し込み ◎全日本ピアノ指導者協会 03(944) 1582

問合せ 東京都豊島区巣鴨1-18-9 3F 〒170

又は、

◎日本交通公社 海外旅行本社内 03(284) 7576 角地・井上  
東京都千代田区丸の内1-6-4 〒100

お申し込み金 ¥ 50,000 (参加費の一部) 東京銀行・丸の内支店 日本交通公社海外旅行本社内支店№206768

ピアノフェスティヴァルについて

毎日、午前2講座 ひるコンサート 午後2講座 夜コンサート と毎日実に密度の高い研修とコンサートが、約一週間続きます。その間に、ブリガムヤング国際コンクールが第二次、第三次と続き、最後にピアノコンフェルトで、優勝者を定め華をかざります。

このコンクール出場者も募っています。課題曲などの要項御希望の方は本部へ。

昨年のブリガムヤング国際コンクールの模様は、会報74号を御覧下さい。

英語がわからなくても、研修会は何も御心配りません。即時通話を用意します。

大勢の方の参加をお待ちします。

# 1978年度最終 PTNA ピティナピアノ演奏検定試験

The Piano Teachers National Association of Japan  
主 催 全日本ピアノ指導者協会

- 主旨
  - ピアノ学習者及び指導者の一つの學習目標となるために
  - 国際感覚をもった指導法の研鑽のために
- 年令 ピアノ検定であるから、年令はまったく問わない、例えば50才の方が、A3級を受けても、7才の方が、A1級を受けても、それぞれの進度に応じたものであればよい。
- 課題曲 左群のバロックスタイルの曲 1曲と、右群の古典、ロマン、現代の中から1曲、計2曲を演奏せねばならない。但し長野地区は今回のみ、課題曲希望の1曲と自由曲1曲計2曲でも良い。
- 審査員は、ヤングピアニスト オーディション審査員に準ずる。(審査委員長 田村 宏、市田巖一郎、伊奈和子、君 芳子、児玉 邦夫、小林 仁、坪田昭三、中村菊子、中田喜直、深沢亮子、松崎怜子、Y・ツグレディ、阿部英雄、内野良子、岡村晴子、岡本滋子、安部和子、井上初子、金子勝子、日下部寛夫、海谷 泉、金井 裕、佐々木す利子、佐野幸枝、島尻政長、杉山千賀子、村杉 弘、二宮裕子、田端三恵子、深美裕子、武田宏子、高木紀子、中川弘一郎、宮脇 博、馬場節子、横井和子、ロト一三代子、福田靖子。)
- 検定日
  - 長野・長野県社会福祉会館 54年3月18日(日) TEL 0262(28)6144(羽田)
  - 新潟・新潟ヤマハホール 54年3月26日(月) TEL 0252(29)0374(笹谷)
  - 茨城(取手)・めぐみ総合教室 54年3月27日(火) TEL 02977(3)3449(片平), 02976(2)7081(藤原)
  - 東京・〈東音〉サロン 54年3月28日(水) TEL 03(944)1581(全日本ピアノ指導者協会)
  - 大阪・カーネギーピアノサロン 54年3月30日(金) TEL 06(245)6354(カーネギー商会)

申し込みはいざれも、3月10日(土)まで(必着)原則として本部で受け付けます。
- 検定参加費 A3～C級 ¥3,500 D～E級 ¥4,000 F～G ¥6,000
- 合格証 検定合格者には、合格証とメダルが送られる。
- 時間は、申し込み者数によって変わるので、締切り日後直ちに連絡する。
- 申し込み用紙 申し込み用紙は、当協会発行の所定の用紙を使用すること、コピーされたような用紙での申し込みは無効とする。
- 申し込み場所 全日本ピアノ指導者協会 東京本部 東京音楽研究会  
 東京都豊島区巣鴨1-18-9 3F 〈東音〉 TEL 03(944)1581  
 原則として下記の申込書を添え、現金書留で上記へ申し込むこと。又は各地、支部世話場所。  
 申し込み者には、参加申込受領証を後送する。

## 1978年度ピティナ ピアノ演奏検定申込書

いざれかを○で囲むこと

ふりがな		男 ・ 女	昭和 年 月 日 生	学 年	通学校名
氏名					
住 所	〒	TEL ( )			
検定 地区名		先生について(未記入でもよい) 住所 〒	先生の氏名 ( ) TEL		
級	A. B. C. D. E. F. G. 特	曲 目			

私こと¥\_\_\_\_\_をそえ上記の通り申し込みます

年 月 日

全日本ピアノ指導者協会御中

ピアノ演奏検定課題曲 (E級以上の課題曲は、オーディションと同じ。本部へ問合せること)

A 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ フランスのダンス 音と遊ぼう I P52 (全音) ピアノの学校 I P34 (音友)</li> <li>◎ ミクロコスモス №28 I巻 P20</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バイエル 72番 中田喜直 みじかいお話 (音友) トングソン ナイトレディ (全音) バステイン 学校へ行く道 (東音) やさしい小曲集 P26</li> </ul>
A 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ クンツ ピアノのための 200の二声カノン (全音) 18番 P 4</li> <li>◎ クリーガー メヌエット バロックアルバム I (音友) 1番 P14</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ブルグミューラー アラベスク 湯山 昭 二人三脚ってむずかしい (カワイ) ピアノのABC 10番 (音友) ルクーペ ピアノのアルファベット 10番(全音)</li> </ul>
A 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ アンナマグダレーナの為の小曲集 ボロネーズ ト短調 BWV119</li> <li>◎ ペーム (ゲオルグ) メヌエット ト長調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ベートーベン ソナチネ ト長調 1楽章 ソナチネアルバム II巻 10番 クレメンティ ソナチネ Op 36 №2 ト長調 3楽章</li> <li>◎ シューマン ユーティアントアルバムより ハミング Op 68 №3 同上 兵隊さんのマーチ Op 68 №2</li> <li>◎ パルトワ まねっこ ハ長調</li> <li>◎ 林 光 ちょっとしたけんか (音友・全音)</li> </ul>
B 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ 小さな前奏曲 へ長調 BWV927</li> <li>◎ バッハ インベンション №1 ハ長調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ クーラウ ソナチネ ハ長調 Op 55 №1 1楽章</li> <li>◎ チャイコフスキイ ひばりの歌 Op 39 №22</li> <li>◎ 湯山 昭 お菓子の世界パウムクーヘン (全音)</li> </ul>
B 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ アンナマグダレーナの為の小曲集 マーチ 変ホ長調 BWV127</li> <li>◎ バッハ インベンション二声 №8 へ長調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ クーラウ ソナチネ Op 55 №2 ト長調 1楽章</li> <li>◎ モーツアルト ピアノソナタ K545 ハ長調 1楽章</li> <li>◎ チャイコフスキイ ナポリの歌 Op 39 №18</li> <li>◎ シューマン ユーティアントアルバムより サンタクロース Op 68 №12</li> <li>◎ プロコフィエフ (全音) 子供の音楽 Op 65より №4 タランテラ ニ短調</li> <li>◎ 中田喜直 (音友) 夢のおはなし</li> </ul>
C 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ インベンション №4 ニ短調</li> <li>◎ バッハ インベンション №6 ホ長調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ モーツアルト ピアノソナタ ト長調 K283 1楽章</li> <li>◎ シューマン ユーティアントアルバムより ミニヨン Op 68 №35</li> <li>◎ 有馬礼子 子どもの庭より (音友) 9 こひとのマーチ ◎ 16 おひるね</li> </ul>
C 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ インベンション二声 №14 変ロ長調</li> <li>◎ バッハ インベンション二声 №2 ハ短調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ベートーベン 6つの変奏曲 ト長調 WoO77 水車小屋の娘の中の「うつろの心」</li> <li>◎ ハイドン ソナタ ニ長調 1楽章 Hob. XVI/37 ウィーン原典版 №50</li> <li>◎ メンデルスゾーン 無言歌 Op 38 №3 詩人のハープ ホ長調 ファンタジアとカブリオ イ短調 Op 16 №1</li> <li>◎ 原 博 (音友) こどもの為の12の古典的小品よりバガテル(全音)</li> <li>◎ シベリウス 横の木 (全音)</li> </ul>
D 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ シンフォニア №2 ハ短調</li> <li>◎ バッハ シンフォニア №14 変ロ長調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ モーツアルト ピアノソナタ へ長調 K.V.138 a 1楽章</li> <li>◎ シューベルト アンソロジーチュ Op 90 №2 変ホ長調</li> <li>◎ 原 博 (音友) 21のエチュードより 12 木陰の夢 13 メフィストフェレス</li> </ul>
D 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ バッハ シンフォニア №4 ニ短調</li> <li>◎ スカルラッティ ソナタ ニ長調 L, 463</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ハイドン ソナタ へ長調 1楽章 ウィーン原典版 Hob. XVI/23 №38(1773年作)</li> <li>◎ モーツアルト ソナタ K331 イ長調 1楽章</li> <li>◎ チャイコフスキイ 四季 Op 37 a より 五月「星空の夜」 六月「バルカラール」</li> <li>◎ プロコフィエフ つかの間の幻想より №4 (全音)</li> <li>◎ 清瀬保二 ピアノのためのポエム 春のスケッチより 「春の日永」 (全音)</li> </ul>

## 施設利用申し込み書

(■を○で囲み、必要事項を御記入の上、予納金をそえてお申し込み下さい。)

■ Hotel (泊日)  
ホテル

Room Person  
(部屋数) (人数)

Checkin, Date  
(チェックイン月日) 月 日 P.M.

Checkout, Date  
(チェックアウト月日) 月 日 A.M.

Piano. Date ■ 使用希望 A.M. ~P.M.  
■ (ピアノ使用月日) ■ 使用せず

■ Music Salon. Date (サロン利用の方のみ記入) 月 日  
(サロン使用月日) A.M. ~P.M.

Name \_\_\_\_\_

Address 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

私こと￥\_\_\_\_\_をそえ上記の通り申し込みます

■現金書留  
■銀行振込

年 月 日

全日本ピアノ指導者協会 御中  
東京都豊島区巣鴨1-18-9-3 F 〒170

# P.T.N.A. 施設利用の御案内

(全日本ピアノ指導者協会会員の為の)

## Hotel Mentels

巢 鴨 ・ 六 本 木

- ・巢鴨は、本部の直前、巢鴨駅南口30秒  
10階建の新しいホテル・バス・トイレ付で快適です。
- ・ピアノ練習は、本部内の〈東音〉サロンでできます
- ・六本木は、昭和54年12月完成予定です

- レッスンを受けに上京される方
- 音楽学校受験の為の方
- お客様の御接待 他
- 〈東音〉サロンは、ミニコンサート 研修会  
ミニおさらい会 などにも御利用になれます。

- ・当協会の施設を利用される時は必ず予約して下さい。  
03 (944) 1581 東京都豊島区巢鴨1—18—9—3 F 〒170
- ・各利用料はすべて前納で、料金納付と同時に予約完了となります。
- ・事務局にホテル代を御送附されると「施設利用予約受付け書」が送られます。  
ホテルフロントにお示し下さい。
- ・1室3人御利用の場合は、2つのベット(ダブル)で御利用となります。
- ・〈東音〉サロン御利用のくわしい事は、別紙サロン利用案内を御覧下さい。  
(10人以下の場合 3時間5,000円)

一 室		会 員	非会員
	1 人 目	4, 0 0 0	5, 0 0 0
	2 人 目	3, 0 0 0	4, 0 0 0
	3 人 目	1, 5 0 0	2, 0 0 0
	ピアノ練習2時間 (サロン使用料+ピアノ)	2, 5 0 0 (宿泊) (の方)	3, 5 0 0

※ ホテル及びサロン利用希望の方は左記の申込書を添え、現金書留でお申し込み下さい。

銀行振込みの場合も、左 申込書は、必ず御郵送下さい。

振込先 第一勵業銀行 大塚支店 (普) 193-1028002

三和銀行 巣鴨支店 (普) 317-30199

全日本ピアノ指導者協会 宛

〈S. 53年 第2回〉

# 検定合格 おめでとう

12月10日(日)と27日(水)の両日、茨城地区と東京地区で、第2回ピティナ演奏検定試験が開催された。12月10日は竜ヶ崎の藤原音楽スタジオ、27日は巣鴨の〈東音〉サロンで行なわれ、朝早くから、多数の受験者がつめかけた。

日頃の練習成果を発揮すべく、受験者は真剣なおももちであったが、指導された先生方も、生徒が日頃の実力

を充分発揮してくれるかどうかと、緊張の様子であった。

金子勝子、日下部憲夫、高木紀子、福田靖子、松崎怜子の諸先生方による慎重な審査の結果、以下に記載された方々が、各級に合格が決定した。健闘をたたえます。

なお、今回残念にも、合格できなかった方々も、第3回検定を目指し、努力されることを、期待したい。

## — A 3級(15名) —

### 〈東京地区〉

黒田妙子・鈴木環・藤代美紀

### 〈茨城地区〉

佐藤加奈子・田伏真由良・加古督幸・大野映子・野上麗子・水間礼子・斎藤美佳子・鈴木若葉・北和佳子・小尾央桂・今田直子・中村久美子

## — A 2級(26名) —

### 〈東京地区〉

吉田敦子・牧野八重子・吉田朗子・吉田典代・山口初代  
三橋朋子・松本悦子・加々見暁子・三枝高広

### 〈茨城地区〉

小野瀬貴子・朝日奈令子・板倉容子・宮本さゆり・寺田仁美・井川芳・吉田民子・森永優子・田伏美景・松本容子・渡利由子・大沢章子・岡野紀子・手島扶美枝・高野由美子・古山佳美・宮本幸子

## — A 1級(4名) —

### 〈東京地区〉

平川恵美・小森美穂・中村留美・財満扶美子

## — B 2級(18名) —

### 〈東京地区〉

宮倉好美・野村光紀・相良優美・武田値果・山田玲子・平本純子

## 〈茨城地区〉

飯塚博美・大貫さとみ・吉崎理華・行方美絵・斎藤貴子  
中本深雪・磯谷三枝子・村瀬薰・角南知佳・中島まゆみ  
飯村美代子・宮永陽子

## — B 1級(4名) —

### 〈東京地区〉

細谷理恵子・林修一・中山玲・高崎のぞみ

## — C 2級(7名) —

### 〈東京地区〉

楠元裕子・和田真理子・池田有里・花澤陽子

### 〈茨城地区〉

小泉博子・藤田信子・山岡加代子

## — D 2級(3名) —

### 〈茨城地区〉

張替直子・笹崎三環子・長沢陽子

## — D 1級(1名) —

### 〈東京地区〉

蓮美和子

(順不同)

塩澤綾子先生・近藤郁子先生・菱沼禮子先生・村田寛子先生・藤原亜津子先生・東佳子先生・萬喜子先生・山木由美先生・小松美沙子先生・岡本滋子先生・河本小夜子先生・相良ちか子先生・川島恒子先生・石上晴子先生・白鳥俊先生・渋谷純子先生

## 第3回検定の御案内

最終検定の日時、会場が決定しました。課題曲は第2回と同じです。今回力が出しきれなかった方々、練習チャレンジして下さい。又合格された方々も次の級をめざしてみてはいかがでしょうか。  
みについて、本号とじ込み頁を御覧下さい。

# PTNA ピティナ催し物御案内 1月～3月

〈1月〉

25日（木） 9：30 A.M. 〈東音〉サロン  
バスティン研究会 第5回 上総 治子・中山 純子  
バスティン・ライブラリーの使い方 その1

28日（日） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
松崎 伶子 個人レッスン 03(944)1581

29日（月） 7：00 P.M. イイノホール  
杉谷 昭子 ピアノリサイタル

〈2月〉

8日（木） 9：30 A.M. 〈東音〉サロン  
バスティン研究会 第6回 上総 治子・中山 純子  
バスティン・ライブラリーの使い方 その2

11日（日） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
松崎 伶子 個人レッスン

12日（月・休） 10：00 A.M. 豊島区民センター  
音楽高校及び大学受験生のための模擬試験

15日（木） 7：00 P.M. 東京文化会館小ホール  
田端 三恵子 ピアノリサイタル  
06(571)1689 (梶本)

17日（土） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
専門コース・研究部  
田端 三恵子 個人レッスン

18日（日） 2：30 P.M.～5：30 P.M.  
〈東音〉サロン  
ショパン愛好会 03(701)8918 (雁部)

25日（日） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
松崎 伶子 個人レッスン

26日（月） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
バッハ・クラヴィア曲研究 第6回 中村 菊子  
主題 バッハ／アンナマグダレーナの為のクラヴィア曲

〈3月〉

1日（木） 9：30 A.M. 〈東音〉サロン  
バスティン研究会 第7回 池田 早梅  
導入時の創作指導と聴音指導

3日（土） 7：00 P.M. 浜松市民会館  
田端 三恵子 ピアノリサイタル

11日（日） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
松崎 伶子 個人レッスン

12日（月） 市ヶ谷ルーテル教会  
ヤーノッシュ・ツェグレディ ピアノリサイタル

15日（木） 9：30 A.M. 〈東音〉サロン  
バスティン研究会 第8回 金子 勝子・石井 和子  
おさらい会の為に レパートリーとしての楽曲

18日（日） 2：30 P.M.～5：30 P.M. 〈東音〉サロン  
ショパン愛好会 03(701)8918 (雁部)

18日（日） 10：00 A.M. 長野県社会福祉会館  
第3回 長野地区 ピアノ演奏検定  
詳細はとじ込み頁参照

26日（月） 10：00 A.M. 新潟・ヤマハホール  
第3回 新潟地区 ピアノ演奏検定  
詳細はとじ込み頁参照

27日（火） 10：00 A.M. 取手・めぐみ総合教室  
第3回 茨城地区 ピアノ演奏検定  
詳細はとじ込み頁参照

28日（水） 10：00 A.M. 〈東音〉サロン  
第3回 東京地区 ピアノ演奏検定  
詳細はとじ込み頁参照

29日（木） 10：00 A.M. 長野市民会館  
ピティナ ヤングピアニストコンサート

30日（金） 10：00 A.M. 大阪・カーネギーピアノサロン  
第3回 関西地区 ピアノ演奏検定  
詳細はとじ込み頁参照 06(245)6354

エリザ・ハンゼン門下の新しい逸材  
西ドイツ国家演奏家資格試験最優秀賞に輝く

# 田端三恵子

[旧姓 播本]



**田端三恵子略歴** 全日本ピアノ指導者協会研究部長 東京芸大附属音楽高校を経て、1970年東京芸大を卒業。在学中、第37回NHK・毎日コンクール入選、安宅賞を受賞。その後大学院へ進み、修士課程修了ののち、1973年西ドイツ・ハンブルク国立音楽大学へ入学する。1975年ホッホシューレコンクール第2位入賞、西ドイツ各地で演奏活動を広げる一方、西ドイツ・リューベック国立音大にて講師をつとめる。1978年ハンブルクにて西ドイツ・国家演奏家資格を6年ぶりの最優秀賞で取得。同年7月帰国し、現在名古屋音大講師をつとめる等、後進の指導にもあたる。斎田四方、井口愛子、田村宏、永井進、エリザ・ハンゼン、ヴィルヘルム・ケンプ各氏に師事。

ピアノリサイタル

## 〈演奏曲目〉

アルバン・ベルク	ソナタ 作品1
ベートーヴェン	ソナタ ハ長調作品53
ドビュッシー	前奏曲集より
	アナカプリの丘
	雪の上の足跡
	西風の見たもの
	亞麻色の髪の乙女
	花火
ラームス	パガニーニ変奏曲 イ短調
	作品35 I, II

●1979年1月10日(水) 6:45 P.M.

名古屋・愛知文化講堂

●1979年2月15日(木) 7:00 P.M.

東京・文化会館小ホール

●1979年3月3日(土) 7:00 P.M.

浜松・市民会館

●1979年3月17日(土) 時間未定

津・教育文化会館

■後援／全日本ピアノ指導者協会

## 募 集

### □子供のための専門コース

将来音楽の道へ進みたいと考えている

子供のための教室（15才以下）

レッスン場所 ○東京〈東音〉サロン及び

○東京近在

○東海・四日市 唯福寺スタジオ

講 師 陣

ピアノ・松崎伶子、田端三恵子、Y・ツグレディ 他

ソルフェージュ・セオリー・日下部憲夫 他

入 会 金

¥15,000 月謝 ¥10,000～¥30,000

お問合せは 本部 03(944)1582 ▶

### □研究部会員

ピアノ演奏技術を高めたいと

考えておられる指導者の為の部

Musical score for piano, two staves. Treble staff: measure 2 starts with a forte dynamic (f), followed by eighth-note pairs. Measure 3 begins with a sixteenth-note pattern. Bass staff: measure 2 has a sustained note. Measure 3 features a bass clef change and a sustained note.

Musical score for piano, two staves. Treble staff: measure 4 starts with a sixteenth-note pattern. Measure 5 begins with a sustained note. Bass staff: measure 4 has a sustained note. Measure 5 features a bass clef change and a sustained note.

Musical score for piano, two staves. Treble staff: measure 6 starts with a sixteenth-note pattern. Measure 7 begins with a forte dynamic (ff). Bass staff: measure 6 has a sustained note. Measure 7 features a bass clef change and a sustained note.

Musical score for piano, two staves. Treble staff: measure 8 starts with a sixteenth-note pattern. Measure 9 begins with a sustained note. Bass staff: measure 8 has a sustained note. Measure 9 features a bass clef change and a sustained note.

## 夏期研修会（後期）より

### ドメニコ・スカルラッティ

②

橋本 英二氏



#### ★ 2曲の組み合わせについて

私は前に、スカルラッティのソナタは単一楽章だと述べましたが、実際にはヴェニス、パルマ、ミュンスターなどの手写し楽譜をみてみると、2曲1対が大部分を占めているのに気がつきます。この様な2曲1対は、当時の他のイタリアの作曲家のチェンバロ曲にもよくみられる事で、例えばナポリの Francesco Durante (1684~1755), Domenico Paradisi (1709~91), Giovani Battista Pescetti (1704~1766)、やや後になって、Abbate Lorenzo de Rossi, Antonio Sacchini, Luigi Cherubiniなどみんな2楽章形式のソナタを書きました。

スカルラッティの場合、初期のソナタは殆ど単一独立していますが、1752年の Venice manuscript 1巻、即ちK. 150代あたりから大部分は、同調、あるいは平行調の2曲によって組み合わされていて、実は、390曲程がこうした例に属し、更には3曲1組といったものまであります。

そしてどうかすると、2曲1対を示すためにわざわざ特に指示をしていることがあります。例えば、ヴェニス1749年版の第2番 (K. 99—No 9, K. 100—No 10) ハ短調、ハ長調の組合せでは、第2曲ハ長調に改めて新しい番号をつけないで、しかも第1曲ハ短調のページの終りに、*Volti Subito* (急いでページをめくる) と書いてあります。又、No 50, K. 347番にあたるヴェニス、パルマ両版の manuscripts では、曲の終りに“このソナタを繰り返して弾き終えたら、手の図が示すように次のソナタにすぐ移るよう”と書いてあり、更にK. 526—No 93ハ短調K. 527—No 94ハ長調の場合、2曲目へ長調の初めにナチュラルを3つつけて調性の変更を示しています。

バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディなどの Sonata da chiesa、あるいは Sonata da Camera では、各楽章の配列、順序はテンボとか拍子、ダンスの種類などによっていますが、スカルラッティの場合には2曲の配合は、どのような基盤によっているのかはつきりしません。つまり、様々な異った要素に成り立っていて、一定性がな

いからで、例えば、遅い曲と早い曲、あるいは、単純な曲と複雑な曲、憂いをおびた曲と明るい曲、2拍子の曲と3拍子の曲、といったような対照を示したものがあるかと思うと、同じような性格の2曲を連ねて、共にある特定な性格を強調し合っているようなものもあります。

この様な2曲組み合わせは、ロンゴ版を始め、多くの現代出版されているスカルラッティのソナタで無視されているだけに、演奏家も又余り注意をもって扱っていないようです。好きな曲を適當によせ集めて弾くのも、あるいは結構かもしれない。だが様々の異った調に基いたり、これはむずかしいからやめよう、これは気に入ったから弾こう、という事になれば、一定性のない羅列になるばかりでなく、それではバッハの前奏曲とフーガは、どうして切り離して弾かないのかという質問も、起って参ります。いやバッハの場合は、大概の楽譜で2曲組み合わせているから、と答えるなら、バッハ自身の手書きによるオリジナル マニエスクリプトの中には、前奏曲とフーガが別々になっているのもかなり例がある事を、指摘してみる必要がありましょう。つまり2曲組み合わせにするかしないかの判断の根底が、習慣に基いているとか、手元にある楽譜に依っているというのなら、これは本当の理解に達していないものです。それだけに演奏家はこの問題に改めて焦点を合わせ、考慮をほどこし、かかる後にそれなりにスカルラッティのソナタの選択をすべきであります。

#### ★和 声

イタリア伝統の和声の華やかな色彩感は、スカルラッティの音楽でも歴然としていて、移り行く転調のすばらしさ、それに伴う感情の激昂、びっくりするような和声は限りなく見られます。余りにも離れた調に転調して、一体何調だったのか判らなくなってしまったかと思うと、ほんの数小節後、見事にそしてスムーズに元の調に還っていた、などという事もしばしばあります。(例 K. 240—No 36, K. 262—No 43) あるいは、ショパンのような enharmonic (異名同音) の転調もあります。(例 K. 247—No 39) フェルマータが幕の合間のような役割を

していて、次の音が出てくると、驚く事もあります。

(例 K.426—XL111)

スカルラッティは、しばしば長調と短調を混合して、対照的なムードをかもし出しました。つまり同じようなフレーズを始めは長調、ついで短調で並べたり(K.381)，当時の世俗流行歌の例を反映して、長調の中に短下属音を使ったり、更には転調の過程で短和音をいくつも折りこんだりしています。

非協和音の取扱いも又実に効果的で、とりわけ注目すべきは acciaccatura (音の塊まり) —これは協和3度音の間に非和声音をかぶせて、打楽的なするどいリズム強調を狙ったものーの使用です。このよい例は、K.175—XX1が挙げられます。何故このような和音を使ったかというと、チェンバロはピアノと違って打鍵の変化によって音の強弱をうまく表現出来ないので、ダイナミックの変化をつけるためには(レジストレーションのような機械的操作は別として)声部の増減に頼らざるを得ないのです。つまり2声(2音)は1声より2倍の音量、3声なら更にあって音量が大きいといった具合、従って7声も8声もある部厚い acciaccatura は sf とか ff のような感じを出すのには絶好というわけです。

これと相まって音域を拡大してチェンバロに cresc. の効果をもたらしたよい例は、K.126—No15・K.180—No22というわけです。こうした理論を裏返すと、何故スカルラッティが非和声音を解決しないで、ユニゾンなりオクターヴにしてしまったか(K.247)，何故同じメッセージを繰り返す時にオクターヴ上げたり下げたりしたか、(K.184—No26) 判って来ます。

曲の始まりが upbeat なのが、後半の始めでは upbeat なし(K.183—No25) 或いはその逆(K.468—No76)とか、平行5度を悪びれもなく美しく使ったり(K.247—No39, K.394—NoXXXVII)，フレーズを月並みな8小節ずつに区切らないなどは、スカルラッティの大きな特長であると共に、魅力でもあります。しかも、イタリア的な美しく凝ったメロディーの表現もよく見られます。

(K.466—No74)

## ★華やかな技巧

スカルラッティは、現代の鍵盤楽器の技術の基礎を築いた人とよく言われるだけに、彼の曲を演奏するに当たって、華やかな技巧の典示がないと、まるで泡立ちのないシャンパンのように味気のないものになってしまいます。

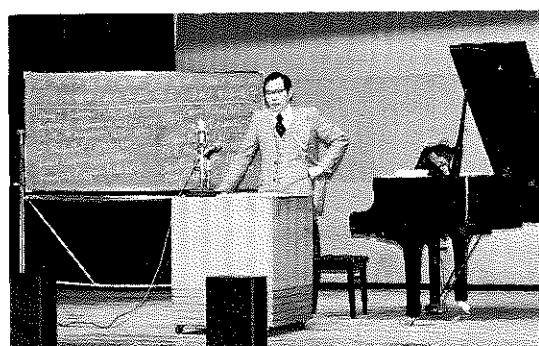
両手の交差—これは特に初期の作品に目立ちますが—その他2重トリル、片手だけによる平行3度、6度、オクターヴの連続、大きなジャンプ、ものすごく速いスケールなどは(K.54, K.520—No.91)，當時としては桁は

ずれ、型破りの超技巧の要求と言えましょう。(注)チャールズ・バーニィは、スカルラッティが後期の作品で両手の交差を余り書かなかったのは、太りすぎて、交差が容易でなくなつたからと述べています。

御存知のように、スカルラッティは指使いについては、バッハ、ラモー、クープランと異って何も残っていないが、しかし、右手で弾くか左手にするかについては、かなり旦念にD(Destra) M(Manca)を書き加えています。だが往々にして、右、左の配置に納得がいかなかつたり、わざわざ殊更難しくしているように受けとられることがあります。それだからといって、いわゆる実用版と称する楽譜でしているような、適当な配置変えに造作をこらすと、正確さとか、やさしさといった観点から効果があるようなものの、作曲家の意図を無視する結果になり、演奏そのものには張りも冒険もなくなり、アクセントは消え、しかも視角の点からいっても、演奏がつまらないものになつてしまふと思ひます。(K.182—No24)

## ★スカルラッティとチェンバロ

スカルラッティにとって、チェンバロは唯一の表現手段だったので、この楽器を通して、彼は何でも思いのままに表現をする事が出来ました。それは丁度、ショパンがピアノに、パガニーニがヴァイオリンに表現の一切を賭けていたとよく似ていますが、それだけに他の楽器—例えばヴァイオリン、ラッパ、ベル、ギター、マンドリンなど—の音を巧みにチェンバロの中に盛り込んで出し出した。とりわけ、ギターやマンドリンは、イベリア半島で普及していただけに、スカルラッティは強い影響を受け、チェンバロの中にその要素を織り込んで、同一音の繰り返しには、Mutandi i deti(指をかえる)と指示を与えました。(K.211—No28)ただし、どの指をどのようにして変えるかについての記録は、残っていません。(K.455)



## ★スカルラッティとピアノ

スカルラッティのソナタをピアノで弾くものかどうか、といった質問を私は時々受けますが、仲々厄介で、一概には述べられないと思います。たしかにスカルラッティは、当時の *forte piano* には余り関心を示しませんでした。これはバッハの場合でも同じだったのですが、この事実はしかし、スカルラッティやバッハの接したピアノが表現力に乏しく、華やかな音色を出す事が出来なかつたのを立証するだけで、これをもって20年後のピアノ（モーツアルトの時代）や現代のピアノも同様に扱って、当時の作曲家がいわゆるその時代、ピアノの為に書かなかつたものだから、現代のピアノで弾くべからずと断定してしまうのは、いささか早すぎるのではないかと考えます。となると問題の焦点は、ピアノで弾くべきかどうかというよりむしろ、ピアノではどのようにして弾くべきか、になるのではないかでしょうか。

私はホロヴィッツの弾くスカルラッティは、大変面白いと感じます。それだけに、もしピアニストが、音楽性、正しいスタイルの追究、確信、情熱などをもってスカルラッティを弾くなら、楽器は演奏の究極を決めるものでなく、手段として浮かび上がり、その上のいわゆる音楽性というものが、重要視されてしかるべきと考えます。だがあいにくとピアニストにとって、スカルラッティはリサイタルの始めの指ならし（或いは胸のどきどき鎮静剤）程度にしか扱われず、プログラムの中心は、もう少しあとになって弾くベートーヴェンとか Brahms になっている例がよくあります。

古い音楽の演奏では、保音ペダル、*crescendo*, *diminuendo* の乱用は、的を得ていませんが、しかしそれだからといって、人間の自然な表現方法である、徐々に盛り上る緊迫感や、やすらぎの感じまで圧縮してしまうのも、妥当ではありません。又チェンバロの要素をピアノでとり入れるべく、チェンバロには保音ペダルがないから音を長く保持出来ないだろう、といった誤った観念のとりこになって、すべての音をカチンカチンのスタッカ

ートで弾き、丁度 C. P. E. バッハが述べた、“鍵盤が焼けついでさわれないような演奏”にするのは、いらだたしくなりましょう。チェンバロだって、うまくやって想像力を豊かにすれば、レガートはあらゆる場合について可能なはずです。*crescendo* や *diminuendo* についても、前に述べたスカルラッティの慎重なテクスチャの織りこみ方、音域のはからいなどをもり上げながら、これに幻覚を加味すれば、充分生き生きしてくると思います。

以上の点を念頭におき、更には解釈の枠をもう一步拡げてみましょう。例えば演奏に当って、装飾音をもう少しつけ加えるべきかどうかですが、この可能性は充分あります。オリジナルのマニユスクリプトでは、装飾音のサインが一貫していなかったり、わかりきっているものとして、2度目は省略している事だってかなりあるのですから。

アルペジオについても、このサインはスカルラッティは特別つけていませんが、ギターの弦のかき鳴らしを想像すれば、当然納得がいくだけに、これも又解釈の任せることろと受けとめましょう。

テンポについても、*Allegro* だからといって速いものとのみにして、バリバリ弾くのがいつも正しくはない、臨機応変で、*Allegriissimo* や *Presto* に近い事もあれば、*Andante* や *Andantino* とほぼ同義である場合もある、と認識する必要がありましょう。

こうした内様を追究し、その上にスカルラッティの独時の気性を理解し、敏感な感覚の上に立って弾く時、初めてこの偉大な天才の作品は光り輝き、聴衆の心に訴える事が出来ると言えます。

注 No……の番号は橋本英二編纂スカルラッティ 100 のソナタ 3巻（全音楽譜出版社）より、XVII のような番号は、カーカバトリック編纂スカルラッティ 60 のソナタ 2巻（全音楽譜出版社）より参考。

写真は全て、第2回バッハ・クラヴィア曲研究（10月23日（月）豊島区民センター）より

## アメリカ ブリガムヤングフェスティバル出場者との交換演奏会 PTNA ピティナ ヤングピアニスト コンサート

小笠原順子（A級 金賞）	西沢 綾（C級 金賞）	若林 順（E級 金賞）	他
54年3月29日（木）2：00P.M.	長野市民会館	お問合せ	0262(28)6144（羽田）
54年4月1日（日）2：00P.M.	姫路市民会館	お問合せ	0792(22)4169（しらさぎ音楽院）
54年4月1日（日）2：00P.M.	徳山市民会館	お問合せ	0834(28)6626（モンテカント）
54年4月3日（火）6：00P.M.	大阪国際サロン	お問合せ	06(245)6354（カーネギー）
54年4月21日（土）2：00P.M.	上田市民会館	お問合せ	0268(22)0551（琴光堂）
54年4月28日（土）3：00P.M.	東京文化会館小ホール	お問合せ	03(944)1582（東音）

# P.T.N.A.ピアノ往来

## ◆橋本英二氏昭和53年度芸術祭受賞さる

当協会スペシャルメンバーであり、世界的のチェンバリスト、そして音楽学者である橋本英二氏が、昨11月6日に開催された、全スカルラッティプログラムによるチェンバロリサイタルに対して、芸術祭賞を受賞された。

氏は、カーラバトリックの直弟子であり、スカルラッティ・バッハの研究家としても、世界的に知られ、現在アメリカ・シンシナティ大学の教授。（教授の中でも段階があり、氏はレジィデンスであり、終身教授の身分を保証されている方）

当協会主催のバッハ・クラヴィア曲研究でも、トッカータと、平均率、フランス組曲・イギリス組曲を御指導いただき、参加者の方々は、こんなみのり多い研修会に出席できて感謝と、多くの言葉が寄せられた。

又、御多忙の日程の中、当協会・竜ヶ崎支部、焼津支部でのコンサート、広島支部での公開講座、そしてピティナヤングピアニストのために、特別個人レッスンでバッハを御指導下さった。来年は、6月下旬から7月下旬にかけて来日が予定されており、今からその日が待たれている。

## ■バッハ・クラヴィア曲研究の最終回 アンナ・マグダレーナの為の小曲集 2月26日(月)に開催予定

上記のバッハ・クラヴィア曲研究は、全8回のシリーズであったが、7回は、小林 仁氏、ベラ・シキ氏、橋本英二氏によって昨秋から冬にかけて開催された。

残る1回、アンナ・マグダレーナの為の小曲集の演奏法と指導法は、ニューヨーク在住、ボードウインコンクール主査の中村菊子氏によって、来る2月26日(月)午前10時より 〈東音〉サロンに於いて開催される。

その折、アンナ・マグダレーナの為の小曲集と同レベルのバロック時代の作品の御紹介も得るので、アンナ・マグダレーナの為の小曲集の研究会に何回か出席された方も、ぜひ御参加頂きたい。

## ■ピティナヤングピアニストによるコンサート冬休み、春休みに開催

ピティナヤングピアニストオーディションの一つの特徴に、全国各地での地元ヤングピアニストとの交換演奏会を開催することがあげられるが、本年度の皮切りは藤原直津子氏の肝入りで、去る12月26日(火)茨城県土浦市民会館で開催された。

地元ヤングピアニストの選出は、12月10日(日)当協会竜ヶ崎支部において、50余名の検定参加者から選ばれ、次の方々が代表として出演、高野由美子(小2)、加藤真美子(小3)、角南知佳(小2)、安藤真理(小3)、



吉崎理華(小3)、張替直子(中2)、横島邦子(高2)、ピティナヤングピアニストは、山中 薫(A級銅賞)、鈴木涼理子(B級金賞なしの銀賞、日本テレビ杯)、堀節子(C級銀賞)、西沢 綾(C級金賞日本テレビ杯)、若林 顕(E級金賞日本テレビ杯)

1500人はいる土浦市民会館も、立見客ができるほどの盛況で、ヤングピアニストたちの熱演に、聴衆から歓喜の声が上がるほどであった。

春の日程は、3月29日長野市民会館、54年4月1日姫路市民会館、同日4月1日徳山市民会館、4月3日大阪国際サロン、4月21日上田市民会館、4月28日東京文化会館、6月2日新潟市民会館が予定されている。

## ■各地の会員、現地でめざましい活躍

●姫路の井上久栄氏(当協会姫路支部長代理、しらさぎ音楽院院長)去る8月6日、姫路市民会館において、ピアノ、エレクトーン、声楽、即興演奏と、1人何役ものコンサートを、「愛と和のコンサート」と銘打って開催地元の音楽ファンをアツと言わしめた。毎日新聞、神戸新聞などで、その名演を絶賛された。

●札幌の中山ヒサ子氏、北海道札幌で11月4日開催されたショパンコンクールに於いて、小学校の部、黒谷尊之君(小6)、高校の部、忠津真理さん(高1)を銀賞入賞させた。

●広島の松原美江氏、去る11月19日、美美の環グループオータムコンサートを、広島シティホテルで開催。

●沖縄の島尻政長氏、去る11月22日、琉球新報ホールにおいて、門下生による第12回ピアノ発表会を開催。

●名古屋の田中経子氏、当協会のピティコンでも、A級銀賞受賞の岩野めぐみちゃん(小1)、11月23日、愛知県、第15回器楽コンクールで、小学校低学年(1, 2, 3年)の部で1位を受賞させた。

●仙台の鈴木英子氏、去る11月26日、東北音楽学校創立30周年を記念し、創作オペレッタを演出、好評を博した。

●広島の川上典子氏、去る11月29日、広島市青少年センターにおいて、「ティーチャーズ・コンサート」を開催。

●焼津の奥山福代氏、漁師町の焼津にクラシック音楽をという願いで、毎年コンサートを開催しておられるが、今年は、連弾の児玉幸子、邦夫両夫妻によるコンサートを12月16日に開催。児玉氏の温いお人柄と、すばらしい演奏で、焼津の市民たちによろこびを与えた。

●大阪の伊奈和子氏、楽歴30周年を記念して、12月25日大阪厚生年金会館に於いて、オールベートーヴェンプロでリサイタルを、そして国際ホテルで祝賀会が開かれ、楽壇、財界からの祝客でにぎわった。

## 「会報を読むことが、唯一の楽しみ」

宮崎・永易真知子先生より

先日は会報をお送り戴きました、ありがとうございました。遠く宮崎へ帰って来てしましましたので、いろいろな研修会への参加も思うようにならず、今のところ、送られてくる会報を読むことが、唯一のつながりであり、又楽しみです。そちらにいた頃よりも注意深く、隅から隅まで、くり返し読んでおります。

72, 73号の夏期研修の報告を読みますと、今回も又充実した会であったようで、参加できなかったことが本当に残念ですが、熱意一杯の会場の雰囲気がこちらにも伝わってくるようで、私も今この地で、精一杯がんばらなければと励されます。

こちらへ帰ってきてからは、7月より教え始め、今のところは6才の女児2名だけを、バスティンメソードを使って指導しています。今までには、企業経営の音楽教室講師であり、決められた教材で指導していましたが、バスティンメソードは、曲集として発表会の時などに用いた位で、初步から指導していくのは、この生徒達が初めてです。

そちらにいる間に、研修会である程度、教材研究はしてまいりましたが、実際に指導にあたるのは初めてで、教える側が不慣れで、試行錯誤の連続ですが、こちらの心配をよそに、生徒達は楽しくレッスンに通ってきてくれ、ホッとしています。

当初『ピアノはむつかしくて、つまらない』と言った感じが見受けられ、心配していたのですが、4ヶ月たって2巻の後半に進んだ今では、テキストにも慣れ、樂しくなってきたようです。

こちらでは、なかなか自分自身の研修の場もないのですが、たまたま新聞で『母親の為の幼児の音感教育講座』の開催を知り、生徒達の母親を誘って、一緒に参加しようと思っています。

## 「オーディションは、よい刺激」

岐阜・河野豊様より

拝啓、庭の柿の葉が散りはじめ、そろそろ冬仕度をはじめたようです。その後、すっかり御無沙汰いたしております。協会の皆々様、お元気でいらっしゃいますか。

今夏のヤングピアニストオーディションを、はじめて

受けさせていただいた者です。あのころは、汗が吹き出るほど暑かったですね、大勢の方達が頑張っていらっしゃる姿に接し、又音楽に情熱を傾むけて下さる協会の方々、先生方のお話など、そういった機会の少ない地方の者には、とてもよい刺激でした。親子共々、学ばせていただきました。本当にありがとうございました。心より感謝致しております。

## 「ペラ・シキ先生にお会いできて」

大阪・田村明子さんのお母様より

昨日は御多忙の中、ペラ・シキ先生をわざわざ私共の家まで、御案内戴きました、本当に有難うございました。

当日お迎えに上ります途中、緊張のあまり気分が悪くなりまして、する事なす事夢心地で、お手伝いに来て下さった方にも笑われましたが、今朝は従来の食欲が戻ってまいりました。

そして今になりました、先生方をお迎え出来たうれしさが、身体中にヒタヒタとあふれてきております。馬場先生には明子をここまで育てて下さり、福田先生にお会いするキッカケを作て下さった事になり、その御恩は本当に有難く感謝しております。

明子には、これまでの先生の御指導を無駄にしない様、尙一層勉強に励んでほしいものと、願って

おります。

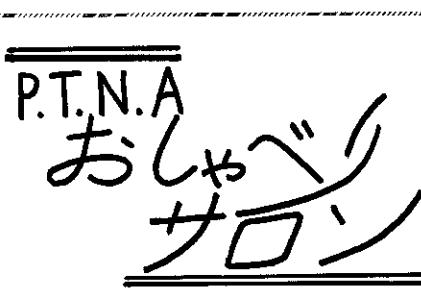
## 「主婦業と母親と教師と……」

栃木・迎佐千子先生より

山茶花の花びらが散って、せわしい年の暮れとなりました。

今年は春より具合が悪く、夏からはとうとうレッスンを休み、2ヶ月程入院致しました。主婦業と母親を兼ねての仕事は、退院してまもないので、さすがにこたえます。

結婚前は、生徒から離れない等とは夢にも思わず、只1つの生きがいでいたが、結婚して2年目に長男を病氣で亡くし、3年目に生まれた長女の育児、そして今年の病院生活と、事あるごとにピアノをやめようと本気で考えました。結婚して子供を育てながらの教師生活は、本当に大変ですが、先輩方は如何なさったのでしょうか。子供の成長を待ちながら、自らを励まして毎日を過ごしているこの頃です。



## おさらい会あれこれ

### 第10回ピアノ発表会（10月15日）

長野・片桐初美先生より

早いもので、ピアノを教え始めてもう11年位になります。10回目の発表会は、ピアノ連弾等を加えて、休憩時間も含め、4時間の長丁場となりました。私が最初に聴くのは、どうも逃げ腰みたいで気がとがめるのですが、この方が非常に精神状態に良いので、他のピアノの先生にもおすすめしたい位です。

カラオケのレコードをバックにした「涙のトッカ



タ」「別涙（わかれ）」は好評で、つくづく協奏曲のこういったレコードが欲しいと思いました。

技術的には、昨年より音楽的に弾けるようになったのではないかとうねぼれています。その反面、私の欠点が生徒達にも及んでいるのがはっきりわかつたりして、まだまだこの先大変だと、覚悟を新たにしているところです。

### 第3回ピアノ教室発表会（9月30日）

別府市・松岡みどり先生より



常々、ピアノを教えることにあたっての、私の考え方と申しますか、願いのようなものがございます。それは、将来生徒1人1人が、何か自分で自由に曲を弾きたいと

思った時に、どんな曲でも弾きたいと思った曲を、すっと弾けるようにしてあげることが出来たならば、幸せだという事です。そのための基礎的な訓練を、レッスン時間に行なえるようになりたいと思います。

私は偶然にも、全日本ピアノ指導者協会様の事を雑誌で知り、ちょうど、ただ単なる技術伝達者になってしまっているのではないかしら、と思い悩んでいた時でしたので、思いきって講習会に参加させて頂きました。そして、この会の意欲的な、ピアノレッスナーのための、思いやりに満ちた講習会を拝見出来、何かふっ切れたような気がして帰郷いたしました。今回の発表会では、その時の林先生の曲を使わせて頂きました。

今後とも良きピアノ指導者になれるよう努力したいと思っております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

### S.53年 第1回検定合格者（未掲載分）

#### — A 1 級 —

(東京地区)

宮崎美保・永友志枝・高村あづさ・沼崎宣子

(岡山地区) 山下剛・岩佐寧子・大江昭一

#### — B 1 級 —

(東京地区) 大野悦子・小林香織

(岡山地区) 奥山優子・大江奈美・藤本由美

(東海地区) 三木郁子

#### — E 級 —

(岡山地区) 高田ひろみ・山口詠子・村岡和美

防音でお困りの方・新しく音楽室を設計する方  
ピアノ室 設計施工

アコースティック・

エンジニアリング

東京都新宿区左門町6番地 小野商ビル5階  
TEL 03-355-2074

(取手支部のお世話をしております)

健 康 の 殿 堂

スイミングクラブ・サウナ  
バレー・ピアノ・英語

めぐみ総合教室

〒302 取手市取手2-14-24  
TEL 0297-73-3449

エンジェルの誇る17人の  
名ピアニストによる  
ピアノ名協奏曲のすべてを  
ここに集大成！ <全50曲>

# ピアノ協奏曲

## 大事典

- J.S.バッハ：第1番/第5番  
(ピアノ)ジャン=ベルナール・ボミエ  
マーティン指揮 ケルン・コンソルティウム・ムジクム  
●ハイドン：ニ長調  
(ピアノ)ヴァッソ・デヴェツィ  
バルシャイ指揮 モスクワ室内管弦楽団  
●モーツアルト：第9番/第19番～第27番  
(ピアノ&指揮)グニエル・バレンボイム  
イギリス室内管弦楽団  
●ベートーヴェン：第1番～第5番  
(ピアノ)エミール・ギレリス  
セル指揮 クリーゲラント管弦楽団  
●メンデルスゾーン：第1番/第2番  
(ピアノ)ジョン・オグデン  
チャッカート指揮 ロンドン交響楽団  
●ウェーバー：ヘ短調  
(ピアノ)クラウディオ・アラウ  
ガリエラ指揮 フィルハーモニア管弦楽団  
●ショパン：第1番  
(ピアノ)マウリオ・ボリーニ  
クレッキー指揮 フィルハーモニア管弦楽団  
●ショパン：第2番  
(ピアノ)サンソン・フランソワ  
フレモー指揮 モンテ・カルロ国立歌劇場管弦楽団  
●リスト：第1番/第2番/死の舞踏/他  
(ピアノ)ヨルジ・シフラー  
シフラーJr.指揮 ハリ管弦楽団

●詳しいパンフレットご希望の方およびレコードをお求めになりたい方は、  
全日本ピアノ指導者協会購売部へお問い合わせ下さい。

- グリーク：イ短調 ●シーマン：イ短調  
(ピアノ)スヴァトラフ・リヒテル  
マクチャ指揮 モンテ・カルロ国立歌劇場管弦楽団  
●ブームス：第1番  
(ピアノ)フルーレ・オノラード・ケルバ  
デッカ指揮 ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団  
●ブームス：第2番  
(ピアノ)スヴァトラフ・リヒテル  
マゼール指揮 ハリ管弦楽団  
●サン=サーンス：第2番/第4番/第5番  
(ピアノ)アルド・チッコリーニ  
ボード指揮 ノリ管弦楽団  
●チャイコフスキイ：第1番  
(ピアノ)アレクシス・ワイセンベルク  
カラヤン指揮 ハリ管弦楽団  
●ドヴォルザーク：ト短調  
(ピアノ)スヴァトラフ・リヒテル  
クリバー指揮 ハイエルン・国立管弦楽団  
●ラフマニノフ：第2番  
(ピアノ)アレクシス・ワイセンベルク  
カラヤン指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
●ラベルト：ト短調、左手のための協奏曲  
(ピアノ)サンソン・フランソワ  
クリエイタス指揮 ハリ管弦楽団  
●バルトーク：第1番/第3番  
(ピアノ)グニエル・バレンボイム/ブレーズ指揮  
ニューヨーク・フィルハーモニア管弦楽団

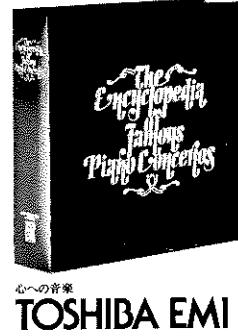
●他全50曲

●EAC-47153～178 30cmステレオLP  
中ジャケット／カートンボックス入り  
26枚組+1枚 ¥39,000

<ベートーヴェン・カデンツァ集>  
ベートーヴェンが、自作のピアノ協奏曲および  
モーツアルトのピアノ協奏曲第20番ニ短調の  
ために作曲した13曲のカデンツァを完全収録  
した、世界唯一の貴重な特別企画レコードです。

現代に求めうる  
最高のピアノ協奏曲の演奏  
村田 武雄

古今の名協奏曲の  
殆んどを手にする幸福  
中田 喜直



心への音楽  
**TOSHIBA EMI**

相双支部のお世話をしております

## タカノ楽器

〒975 福島県原町市栄町3の16  
TEL 02442-2-3158

### 編集部よりのお願い

■ 新年おめでとうございます。皆様方の御協力を得て、OUR MUSICも早いもので、創刊75号めを迎えました。

本年も、できる限り皆様方からの御意見、御感想などを取り入れながら、編集していくかと思っております。日頃御指導されていてお感じになっている事など、どんな事でも結構ですので編集部宛にお送り下さい。皆様方からのお便りをお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

横浜支部のお世話をしております

## ハタ楽器

〒226 横浜市緑区鶴居町477  
TEL 045-934-2468

わたくしたちの音楽 第75号（特価500円）  
昭和54年1月1日発行 1ヶ年3,600円  
料 1,200円

発行所 全日本ピアノ指導者協会  
会長 羽田 孜

発売元 株式会社 東音企画  
東京都豊島区巣鴨1-18-9 Tel.(03)944-1581